

令和 7 年度

遠軽町社会福祉協議会

事業報告書

(自 令和 7 年 4 月 1 日 ～ 至 令和 8 年 3 月 31 日)

社会福祉法人 遠軽町社会福祉協議会

令和 7 年度 遠軽町社会福祉協議会事業報告書

令和 7 年度の我が国の経済状況は、社会経済活動の回復が進む一方、世界各地での紛争の長期化や国際情勢の不安定化をより、エネルギー価格や食料品価格の高止まりが続く、物価上昇が家計や地域経済への影響を及ぼすなど、先行き不透明な状況が続きました。

このような中、当協議会は、地域の住民が住み慣れた地域で自立した日常生活を継続できるよう、関係機関等と連携しながら、地域福祉事業や在宅福祉事業をはじめとする各種福祉活動に取り組んでまいりました。

一方、少子高齢化や人口減少の進行、福祉・介護人材の確保が一層困難となる中、当協議会が運営してきた小規模多機能型居宅介護事業所については、今後の安定的運営が困難であると判断し、やむを得ず、本年度をもって廃止することとなりました。廃止にあたっては、利用者の生活に支障が生じないように、関係機関と連携し、円滑な支援の継続に努めました。

当協議会は、こうした状況を踏まえ、「ともに支え合う安心・安全・福祉のまちづくり」という基本目標のもと、地域の実情に即した福祉活動の推進に取り組んでまいりました。

以下のとおり、令和 7 年度の事業について報告いたします。

Ⅰ 地域福祉活動の推進

社会環境の変化に伴い、地域住民が抱える生活上の課題は多様化・複雑化しており、地域における支えあいの重要性が一層高まっています。このような状況を踏まえ、地域福祉の推進を目的として、各種事業を実施しました。

(Ⅰ) 小地域福祉活動推進事業（小地域ネットワーク事業）

各自治会において、高齢者（ひとり暮らし高齢者）等を対象とした見守り活動や声かけ、地域ふれあい交流会の実施など、地域住民による主体的な福祉活動の推進を図るため、次のとおり各自治会に対し助成支援を行いました。

（単位：円）

	令和 7 年度		令和 6 年度		比 較		備 考
	件数	助成額	件数	助成額	件数	助成額	
遠 軽	29	869,500	28	861,350	1	8,150	
生田原	21	213,800	21	225,425		△11,625	
丸瀬布	12	167,500	12	175,800		△ 8,300	
白 滝	8	60,000	8	60,000			自治会長連絡協議会に一括交付
合 計	70	1,310,800	69	1,322,575	1	△11,775	

(2) 地域型ふれあいサロン（カフェ）の実施

地域サロンは、絵手紙などの活動を中心に、月1回程度開催しました。近年はライフスタイルの変化等により参加者数が減少傾向にありますが、参加者は50代から80代までと年齢層が幅広く、毎月の例会を楽しみに継続して参加されています。

地域住民同士の交流や仲間づくりの場としての役割を果たすとともに、孤立防止や生きがいづくりを目的として、安心して参加できる環境づくりに配慮しながら、サロン事業を実施しました。

地区	実施主体	サロン名（内容）	回数	参加人数	備 考
遠 軽	社 協	中央サロン （絵手紙・ちぎり絵）	12 回	134 人	毎月開催 会場・げんき 21
生田原	社 協	生田原サロン （絵手紙を楽しむ会）	12 回	77 人	毎月開催 会場・生田原図書館
丸瀬布	社 協	おしゃべりサロン （モザイクアート・クリスマスツリー・ 体操・運動・認知症予防等ミニ講座等）	11 回	147 人	毎月開催 会場・丸瀬布ふれあいセンター
白 滝	社 協	サロン喜楽 （小物・リース・お菓子作り・折り紙・ ゲーム・カラオケ・クリスマス会等）	12 回	107 人	毎月開催 会場・白滝生きがいセンター

(3) 地域ふれあい交流等事業の実施

地域住民と障がい者、高齢者、子どもたちが、ふれあい交流を通じて相互理解を深め、社会参加の促進を図ることを目的として本事業を実施しました。

世代や立場を超えた交流の機会を創出することで、地域における支えあいの意識醸成と誰もが安心して暮らせる地域づくりの推進に寄与しました。

◆各地区のふれあい広場事業

事業名(地区)	内 容
健康とふれあいの広場 2025 (遠軽)	・ 開 催 日 令和7年6月29日(日) ・ 開催場所 遠軽町保健福祉総合センター ・ 参加人員 500 名 「障がいを持つ人、お年寄り、若者、子どもたち」と町民同士でふれあい、優しさや思いやりを伝え合うことで、多くの人々に福祉に対する理解と関心を広め、福祉の推進を図るとともに、「自分の健康は自分で守る」という意識の醸成を目的とした事業です。 令和7年度も、町民の交流と健康意識の向上を図りながら実施しました。

ふれあいほのぼの 納涼祭 2025 (白滝)	・開催日 令和7年7月17日(木) ・開催場所 遠軽町白滝高齢者総合生活福祉センター (ほのぼの) ・参加人員 150名 普段、外出の機会が少ない高齢者の社会参加を促進するため、高齢者と地域住民が同じ場所に集い、語り合えることのできる場を提供し、世代間交流を図ることを目的とした事業です。 令和7年度も、高齢者の社会参加と地域交流の促進努めながら実施しました。
ふれあいと 健康の広場 まるせっぷ 2025 (丸瀬布)	・開催日 令和7年8月30日(土) ・開催場所 丸瀬布中央公民館 ・参加人員 150名 地域で生活する子ども、高齢者や障がい者に対する地域住民の励ましや助けあい、支えあいや思いやりのある温かな地域づくりの実現、また、共に健康で安心して暮らせる地域づくりを目的とした事業です。 令和7年度も、高齢者や障がい者の社会参加と地域交流の促進努めながら実施しました。

◆ふれあい交流事業

事業名(地区)	内 容
第20回 社協会長杯 ゲートボール大会 (遠軽)	・開催日 令和7年9月30日(火) ・開催場所 遠軽高齢者スポーツセンター ・参加人員 28名(高齢者4チーム24名・社協役職員4名) 遠軽町内の高齢者がゲートボール大会を通して交流を深め、あわせて健康増進を図ることを目的とする事業です。 第1回大会では、4地区16チームで80名の高齢者が参加していましたが、ライフスタイルの変化等により、ゲートボールの競技人口は年々減少しています。 令和7年度は、4チーム24名の高齢者に加え、事務局職員を含めた4チームを編成し、実施しました。 競技人口の減少により、大会の開催が危ぶまれている状況ですが、チーム編成が可能な間は大会を開催し、編成が困難となった場合には、ゲートボールに代わる交流事業の内容について、検討する必要があります。

おしゃべり サロン会食会 (丸瀬布)	・開催日 令和7年12月16日(火) ・開催場所 丸瀬布ふれあいセンター ・参加人員 19名(高齢者15名、社協職員4名) 70歳以上の一人暮らし高齢者・2人暮らしの高齢者夫婦・サロンの参加者を対象に実施している事業です。 従来は町外で実施していましたが、燃料費や物価高騰の影響により、町外施設の使用料等が大幅に増加したことから、令和7年度は町内の施設を活用して実施しました。
ふれあい もちつき大会 (白滝地区)	・開催日 令和7年12月10日(水) ・開催場所 高齢者総合生活福祉センターほのぼの ・参加人員 69名 (デイサービス利用者・家族10名・ほのぼのの入居者9名・保育所児童・保育士・保護者18名・消防署職員4名・サロン利用者5名・民生児童委員3名・総合支所職員4名・社協役職員16名) 地域の高齢者(施設入居者、デイサービス利用者)と地域の子供たち、サロン利用者、民生委員児童委員、行政職員、社会福祉協議会役職員、評議員が餅つきを通じて、地域の世代間交流を図る事業です。 令和7年度は、関係者の協力のもと事業を実施し、世代を超えた交流を深める機会となりました。

◆ふれあい郵便事業

一人暮らしの高齢者を対象に、ボランティアの協力を得て、はがきや絵手紙を作成・送付するとともに、配食サービスにあわせて配付することで高齢者との交流や見守りの一助としました。

○遠軽地区

- ・絵手紙サロン中央

毎月、絵手紙作成。配食世帯に2か月に1回程度で配付

○生田原地区

- ・北光学園ボランティアサークル

生田原地区(生田原地域・安国地域)にお住いの満70歳以上の一人暮らしの高齢者を対象に手紙を毎月送付

(4) 福祉総合相談業務

福祉総合相談業務を実施し、住民が抱える生活上の様々な相談に対応しました。令和7年度は、経済環境の変化に伴い、物価高騰の影響による経済的な相談が増加する傾向が見られました。

○遠軽地区

定例相談 毎週火曜日

遠軽町保健福祉総合センター（社協相談室）

相談員（民生委員・児童委員に委嘱し、社協役職員とともに対応）

随時対応 遠軽町保健福祉総合センター

相談員（社協役職員）

相談件数 45 件

（内訳：開設日 47 日、電話相談 28 件、相談日以外の来所相談 17 件）

○生田原地区

随時対応 遠軽町社会福祉協議会生田原地区事務所

相談員（社協職員）

○丸瀬布地区

随時対応 遠軽町丸瀬布ふれあいセンター

相談員（社協職員）

○白滝地区

随時対応 遠軽町白滝高齢者総合生活福祉センター

相談員（社協職員）

(5) 安心・安全・福祉のまちづくり推進

全国的に、特殊詐欺による被害が後を絶たない状況が続いています。このようなか、全国で展開されている特殊詐欺撲滅運動の趣旨を踏まえ、町内の関係機関と連携し、地域住民が住み慣れた地域で安心して安全に生活できることを目的に、被害防止活動に取り組みました。

令和 7 年度の活動は、次のとおりです。

事業名(地区)	内 容
シバザクラ満開 凧上げ大会 (遠軽)	・実施日 令和 7 年 5 月 18 日（日） ・開催場所 太陽の丘えんがる公園虹の広場 ・参加人数 80 名（一般参加者 50 名・一筆会・警察署職員・絵手紙同好会・曾友会・社協役職員） ボランティアに制作してもらった凧をあげ、子どもたちに昔遊びを伝承するとともに、防犯の啓発活動を行う事業です。 令和 7 年度は、凧上げ会場において「特殊詐欺被害防止啓発凧」及び「交通安全の啓発凧」の制作者 2 名が代表して、遠軽警察署長並びに署員へ凧を贈呈しました。
悪質訪問販売 被害防止活動 (全地区)	・実施日 令和 7 年 4 月～令和 8 年 3 月 ・開催場所 遠軽町全域 「悪質訪問監視車両」と印字したマグネットステッカーを貼付した車両を活用し、全地区のヘルパー等が訪問車両 10 台で日常的に運行することで、被害の未然防止におけた啓発を行っています。

特殊詐欺 被害防止 啓発活動 (遠軽)	・実施日 令和7年4月～令和8年3月（偶数月の年金支給日） ・開催場所 遠軽郵便局前 特殊詐欺被害防止にかかるパンフレット等を、遠軽警察署員および社協職員が配布しました。
------------------------------	---

(6) 会員の拡大活動（一般会員・特別会員）

自治会連合会並びに各自治会の全面的な協力を得て、令和7年度も会員拡大に取り組みましたが、4地区全体での会員数は、前年度比88会員の減少となりました。

一般会員数については、前年度と比較して、遠軽地区で4世帯の減、生田原地区で29世帯の減、丸瀬布地区で22世帯の減、白滝地区で3世帯の減となり、4地区全体で58世帯の減となりました。一般会員数は年々減少傾向にあります。

特別会員数については、遠軽地区で26件の減、生田原地区で1件の減、丸瀬布地区で7件の減、白滝地区で2件の増となり、4地区全体で30件の減少となりました。

過疎化や少子高齢化といった社会的要因による人口減少の影響はあるものの、今後においても、地域の福祉活動を支える基盤として、引き続き会員拡大に向けた取り組みを進めていく必要があります。

社協会員加入状況（R8.3.31現在、一般～世帯数・特別～件数）

地 区	区 分	令和7年度	令和6年度	比 較
遠 軽	一般会員	3,406	3,410	△ 4
	特別会員	364	390	△ 26
	小 計	3,770	3,800	△ 30
生田原	一般会員	590	619	△ 29
	特別会員	8	7	△ 1
	小 計	598	626	△ 28
丸瀬布	一般会員	500	522	△ 22
	特別会員	24	31	△ 7
	小 計	524	553	△ 29
白 滝	一般会員	193	196	△ 3
	特別会員	20	18	2
	小 計	213	214	△ 1
合 計	一般会員	4,689	4,747	△ 58
	特別会員	416	446	△ 30
	合 計	5,105	5,193	△ 88

(7) 各福祉団体育成事業の推進

地域福祉の推進を図るため、次の各福祉団体の活動に対し、財政援助及び支援協力を行いました。

◆老人福祉活動助成支援

◇遠軽町老人クラブ連合会（4地区全体）

◇単位老人クラブ（4地区8クラブ・会員数336名〔前年度415名〕）

〈内訳〉

遠軽地区 5クラブ

生田原地区 1クラブ

丸瀬布地区 1クラブ

白滝地区 1クラブ

（助成総額56,580円〔前年度69,460円〕）

◆心身障がい児・者福祉活動助成支援

◇遠軽ことばを育てる親の会

◇北海道難病連遠軽支部

◇NPO法人遠軽町手をつなぐ育成会かたつむりの会

◆児童福祉活動の推進

◇遠軽町子ども会育成連合会

◆民生委員活動への助成支援

◇遠軽町民生委員児童委員協議会

◆その他福祉団体の活動への支援

◇遠軽町遺族会

(8) 募金運動の推進

「歳末チャリティー芸能の集い」（イベント募金）を遠軽町芸術文化交流プラザ（メトロプラザ）において開催し、多くの町民の皆様にご協力をいただきました。

また、街頭募金については、遠軽地区では、シティ遠軽店、コーププラザ店、コープみなみ店、ダイソーコープみなみ店、生田原地区では、遠軽信用金庫生田原支店、セイコーマート生田原店、丸瀬布地区では道の駅まるせっぷ、白滝地区は、道の駅しらたきにおいて、10月1日～10月27日の間に募金活動を行いました。

遠軽地区においては、遠軽地区自治会連合会、遠軽高校インターアクトクラブ、遠軽高校生徒有志、遠軽高校定時制、遠軽小学校児童会、東小学校児童会、南小学校児童会、遠軽中学校生徒会、南中学校生徒会、北光福祉会各施設職員、NPOさわやか（職員・メンバー）、NPOかたつむりの会（職員・メンバー）、くらしネットLink（職員・利用者）、遠軽信用金庫本店職員、民生委員児童委員、社協役職員・評議員、個人ボランティアなど総勢621名の方々に募金ボランティアとしてご協力をいただきました。

生田原地区では、民生委員児童委員、福祉推進委員、社協役職員・評議員の計

8名、丸瀬布地区では、民生委員児童委員、福祉推進委員、保健推進員、役場総合支所職員、丸瀬布福祉会、社協役職員・評議員の計11名、白滝地区では、民生委員児童委員、社協役職員・評議員、役場総合支所職員、日本赤十字奉仕団、白滝小学校教員の計13名の協力を得て実施しました。

全地区を通じて、総勢653名（前年度636名）の皆様に募金活動へご協力をいただき、834,848円（前年度871,420円）となりました。

このほか、自治会による一括募金、法人募金、学校募金、個人大口募金（遠軽地区募金ボランティア61名）など、全町的な協力を得ることができました。

また、昨年度に引き続き、ご当地ピンバッチを作成し、バッチ募金を実施したところ、多くの方々にご協力をいただき、好評を得ることができました。

令和7年度の赤い羽根共同募金については、目標額4,742,000円に対して、募金総額は、5,366,467円となり、目標額を624,467円上回る結果となりました。

(9) 広報活動の推進

令和5年度に開設した当協議会のホームページを活用し、社協からのお知らせや事業・行事案内等について随時情報発信を行いました。

また、「社協だより」を年5回発行するとともに、丸瀬布地区においては、地元紙「やまなみ」に社協ニュース（月3回）を掲載し、事業計画や各種お知らせ、行事案内など、きめ細かな広報活動に努めました。

(10) 福祉学習の推進

豊かな福祉の地域づくりを進めるため、町内の学校等と連携を深めながら、福祉教育の一環として、福祉体験学習を実施しました。

学校名	開催日	内 容	講師
遠 軽 小 学 校	12月 3日（水）	車イス体験	職員3名
	12月 8日（月）	ブラインドウォーク	職員2名
丸瀬布中学校	11月12日（水）	車イス体験・高齢者疑似体験	職員2名
遠 軽 中 学 校	1月20日（火）	認知症サポーター養成講座	職員3名
	1月29日（木）	車イス体験・高齢者疑似体験	職員5名

(11) ボランティア活動の推進

ボランティアの発掘や育成および活動の推進を図るため、ボランティアセンターでは次のような事業を実施しました。

令和7年度は、各地でイベントや行事が開催され、ボランティアの派遣を行いました。（ボランティア派遣5回、延べ431人）

① ボランティア協力校指定事業

当協議会が指定した町内の学校並びに指定団体において、各地区でボランテ

ィア活動に取り組みました。

◇町社協指定

- ・遠軽小学校 ・東小学校 ・南小学校
- ・生田原小学校 ・安国小学校 ・丸瀬布小学校
- ・白滝小学校 ・遠軽中学校 ・南中学校
- ・生田原中学校 ・安国中学校 ・丸瀬布中学校
- ・白滝中学校 ・北海道紋別養護学校ひまわり学園分校
- ・遠軽高校（定時制） 計 15 校

② 青少年ボランティア活動推進事業

将来の地域福祉の担い手となる青少年の育成を目的に、町内の青少年ボランティアサークルをボランティア活動協力の指定団体とし、活動を支援しました。

- ・北光学園ボランティアサークル

③ ボランティア研修会等への参加

令和 8 年度オホーツク圏市民活動ボランティアフォーラム遠紋ブロック会議

令和 8 年 3 月 6 日 佐呂間町 職員 1 名出席

④ ボランティア活動等の広報事業

社協だよりを通じて、住民へ周知を行いました。

⑤ ボランティア登録者の募集

年間を通じて、個人ボランティアおよびボランティア団体の登録募集を行いました。

- ・個人登録 1 名
- ・団体登録 なし

⑥ 個人ボランティア・ボランティア団体との連絡調整

ボランティア派遣の要請に基づき、個人ボランティア及びボランティア団体との連絡調整を行いました。

各地区でふれあい交流事業や福祉イベントが開催され、多くの個人・団体のボランティアの調整を行いました。

⑦ ボランティア活動保険の加入促進

安心してボランティア活動に参加していただけるよう、社協だより等を活用し、ボランティア活動保険への加入促進を図りました。

2 在宅福祉サービス事業の推進

社協の活動エリアは広範囲にわたりますが、地域に密着した体制のもと、きめ細かな在宅福祉サービスを展開に努め、次のとおり事業を実施しました。

(1) 町受託事業

◆配食サービス事業

調理を行う事が困難な在宅の高齢者や障がい者を対象に、週 2 回を限度として夕食を配達しながら安否確認も併せて行う町の委託事業です。

令和 7 年度の介護予防・日常生活総合事業対象者の配食数は、前年度と比較し

て 81 食の減となりましたが、利用者数は 16 名の増となりました。

また、その他の対象者の配食数は、446 食の増、利用者数は 18 名増となりました。

介護予防・日常生活支援総合事業

	配 食 数 (食)			利 用 者 数 (人)		
	令和 7 年度	令和 6 年度	比較	令和 7 年度	令和 6 年度	比較
遠 軽	3,071	3,140	△ 69	42	36	6
生田原	678	688	△ 10	9	9	
丸瀬布	106	212	△ 106	11	2	9
白 滝	419	315	104	5	4	1
計	4,274	4,355	△ 81	67	51	16

その他

	配 食 数 (食)			利 用 者 数 (人)		
	令和 7 年度	令和 6 年度	比較	令和 7 年度	令和 6 年度	比較
遠 軽	3,505	3,366	139	47	41	6
生田原	983	688	295	12	10	2
丸瀬布	1,003	755	248	15	7	8
白 滝	504	740	△ 236	8	6	2
計	5,995	5,549	446	82	64	18

◆外出支援サービス事業

要支援の高齢者や重度の障がい者を対象に、通院やリハビリ等のため、医療機関等への送迎を行う町の委託事業です。

令和 7 年度は、前年度と比較して、利用延人数は 176 人の減、利用者数は 9 人の減となっています。

	利用延人数(人)			利 用 者 数 (人)		
	令和 7 年度	令和 6 年度	比較	令和 7 年度	令和 6 年度	比較
遠 軽	1,276	1,213	63	56	60	△ 4
生田原	643	786	△ 143	21	24	△ 3
丸瀬布	344	431	△ 87	8	9	△ 1
白 滝	186	195	△ 9	2	3	△ 1
計	2,449	2,625	△ 176	87	96	△ 9

◆在宅介護用品支給事業

本事業は、遠軽町からの受託事業として、介護保険要介護３・４・５の認定を受けている方及び重度の障がい者（児）が対象者となり、町民税非課税世帯において在宅で介護を行っている介護者の経済的な負担の軽減を図ることを目的に、介護用品（紙オムツ・紙パンツ・尿取りパッド）を現物支給するものです。

令和７年度は、前年度と比較して、利用延人数は９人の減となっています。

なお、遠軽地区及び生田原地区における介護用品の配布は、民生委員児童委員の協力を得て実施しました。

	利用延人数(人)			利用者数(人)		
	令和７年度	令和６年度	比較	令和７年度	令和６年度	比較
遠 軽	95	115	△20	14	13	1
生田原	42	31	11	4	5	△ 1
丸瀬布						
白 滝						
計	137	146	△ 9	18	18	

※対象者は令和８年３月３１日現在です。

◆生活支援体制整備事業

高齢者の日常生活のニーズの把握及び地域資源の状況を調査・整理し、高齢者が住み慣れた地域で自立した生活を継続できるよう取り組むことを目的として、町の委託を受け「生活支援コーディネーター」を配置し、事業を実施しました。

	令和７年度	令和６年度	比 較
地域のニーズと地域資源状況の見える化及び問題提起	44	80	△36
地縁組織等多様な主体への協力依頼等働きかけ	15	18	△ 3
関係者のネットワーク化	36	39	△ 3
目指す地域の姿並びに方針の共有及び意識の統一	44	41	3
生活支援の担い手の養成及びサービスの開発	10	18	△ 8
ニーズとサービスのマッチング	12	28	△16

◆地域包括支援センター事業

遠軽町から委託を受け、高齢者等の身近な相談窓口として、高齢者やその家族等が保健・福祉サービスによる必要な支援を総合的に受けられるよう、各関係機関と連携・調整を図りながら相談援助を行いました。

年間の相談援助等の総件数は、町が実施する介護予防事業や日常生活支援事業等が地域住民に広く理解されてきたことから、前年度と比較して219件と大幅な増となりました。

		令和 7 年度	令和 6 年度	比 較
相 談 件 数		6,114	5,895	219
	新規	261	262	△ 1
	継続	5,853	5,633	220
相 談 形 態	訪問	1,882	2,017	△ 135
	電話	2,721	2,583	138
	来所	325	284	41
	その他	1,186	1,011	175
相 談 者	本人	3,161	3,005	156
	家族	1,700	1,955	△ 255
	地域住民	25	8	17
	介護支援専門員	77	77	
	医療・福祉関係機関	2,068	1,804	264
	民生委員児童委員	14	18	△ 4
	その他	22	30	△ 8
業 務 内 容	健康・医療関係	2,210	2,191	19
	介護保険制度関係	2,629	2,465	164
	他の保健・福祉サービス関係	1,346	1,429	△ 83
	施設入所関係	242	394	△ 152
	実態把握・相談助言	2,843	2,833	10
	住宅改修関係	449	577	△ 78
	介護用品関係	824	837	△ 13
	連絡・調整	4,124	3,973	151
	生活全般	1,426	1,416	10
	ケアマネ支援	37	19	18
	成年後見	2	1	1
	困難事例	2		2
	消費者被害			
	虐待・介護放棄		1	△ 1
	その他	24	8	16
会 議	ケアマネ会議	34	45	△ 11
	地域ケア会議	74	62	12
	グループホーム運営推進会議	31	30	1
	個別ケース会議	265	294	△ 29
	その他	487	533	△ 46
講 師 派 遣		48	43	5

◆在宅介護支援センター事業

高齢者が住み慣れた地域で生活を継続できるよう、町から在宅介護支援センター事業の委託を受け、生田原・丸瀬布・白滝の各地区において、高齢者やその家族が、保健・福祉サービスによる必要な支援が総合的に受けられるよう、各関係機関と連携・調整を図りながら相談援助を行いました。

相談援助等の総件数は、3地区ともに増加しました。

		生田原			丸瀬布			白 滝		
		R7	R6	比較	R7	R6	比較	R7	R6	比較
相 談 件 数		1,309	1,172	137	1,124	1,041	83	850	813	37
	新 規	35	30	5	12	9	3	33	19	14
	継 続	1,274	1,142	132	1,112	1,032	80	817	794	23
相 談 形 態	訪 問	632	665	△ 33	512	480	32	469	525	△ 56
	電 話	442	318	124	1,039	950	89	215	227	△ 12
	来 所	82	56	26	9	10	△ 1	195	109	86
	そ の 他	153	133	20				14	29	△ 15
相 談 者	本 人	718	724	△ 6	753	735	18	528	503	25
	家 族	654	522	132	518	500	18	369	347	22
	地 域 住 民	31	4	27	10	5	5	4	3	1
	医 療 ・ 福 祉 機 関	201	138	63	131	165	△ 34	141	115	26
	サ ー ビ ス 事 業 所	172	223	△ 51	669	570	99	138	122	16
	そ の 他	2	11	△ 9				9	12	△ 3
業 務 内 容	健 康 ・ 医 療 関 係	933	903	30	398	287	111	233	240	△ 7
	介 護 保 険 制 度 関 係	1,033	1,014	19	863	757	106	488	493	△ 5
	他の医療・福祉サービス	310	172	138	266	308	△ 42	84	26	58
	施 設 入 所 関 係	49	60	△ 11	48	23	25	16	34	△ 18
	住 宅 改 修 関 係	17	9	8	38	25	13	25	7	18
	介 護 用 品 関 係	43	27	16	109	57	52	16	17	△ 1
	虐 待 ・ 権 利 擁 護	5	15	△ 10						
	そ の 他	108	83	25				56	55	1
対 応 調 整	申 請 代 行	11	29	△ 18	12	6	6	41	30	11
	他 機 関 紹 介	4	4							
	一 時 支 援	23	44	△ 21	2	2		13	12	1
	調 整 ・ ケ ー ス 会 議	1,087	986	101	1,110	1,017	93	167	154	13
	状 況 確 認	1,259	1,119	140	952	816	136	646	695	△ 49
	助 言 指 導	149	110	39				12	15	△ 3
	そ の 他	13	1	12		1	41	93	25	68

◆高齢者共同生活支援施設運営事業

遠軽地区に設置されている施設で、入居高齢者の生活を支援する町からの委託事業です。

「みのり荘」「第2みのり荘」（両施設共に定員9名）に各1名の支援員を配置し、365日24時間体制で、入居者の食事や日常生活の世話など、生活全般にわたる支援を行いました。

◆高齢者総合生活福祉センター管理運営事業

白滝地区に設置されているセンターについて、町からの管理運営の委託を受けています。

このセンターの居住部門において、入居者が安心して暮らせるよう、365日24時間体制で援助員1名が常駐し、生活支援を行いました。

令和7年度末の入居の状況は、16居室のうち8室が利用されており、9名が入居しています。

◆介護予防教室事業

高齢者の介護予防を目的として、健康体操やレクリエーション等を行い、高齢者の健康保持・増進を図るため、介護予防教室を実施しました。

令和7年度の延参加者数は196人の減となりました。

	登録 者数	延開催数(回)			延参加者数(人)		
		R7	R6	比較	R7	R6	比較
コスモス（A教室）	30	20	20		327	423	△96
ひまわり（B－1教室）	23	20	20		242	304	△62
ラベンダー（B－2教室）	12	20	20		107	114	△7
ちゅうりっぷ（S教室）	55	20	20		679	691	△12
おとこ組	18	21	20	1	214	229	△15
桜組（C－1教室）	18	24	24		336	320	16
藤教室（C－2教室）	12	24	24		252	203	49
生田原教室	17	11	12	△1	136	165	△29
丸瀬布教室	18	5	6	△1	34	71	△37
白滝教室	7	6	6		69	72	△3
合 計	210	171	172	△1	2,396	2,592	△196

◆生活管理指導短期宿泊事業

町の委託を受け、白滝地区の「高齢者総合生活福祉センターほのぼの」において、家族が留守にするなどの理由により介護ができない場合に、短期間の宿泊利用を提供する事業です。令和 7 年度は、利用実績はありませんでした。

◆障がい者（児）移動支援事業

町の委託を受け、身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者及び障がいのある児童を対象に、社会生活上必要不可欠な外出及び余暇活動等における移動の際の介護支援を行う事業です。

令和 7 年度は、遠軽地区の身体障がい者を対象にヘルパーを派遣し、移動支援サービスを提供しました。利用延回数は、前年度に比較して減となりました。

	利用延回数(回)			利用者数(人)		
	令和 7 年度	令和 6 年度	比較	令和 7 年度	令和 6 年度	比較
遠 軽	34	46	△ 12	1	1	

◆障がい者（児）居宅介護等事業

町の委託を受け、身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者及び児童を対象に、障がい者総合支援事業の対象にならない方に対し、通所サービスを提供する事業です。令和 7 年度は、利用実績はありませんでした。

◆要介護認定に係る調査業務

町の委託を受け、介護保険の要介護認定を受ける方を対象に、介護支援専門員が自宅等を訪問し、認定調査業務を行う事業です。

調査業務の延件数は前年度と比較して、8 件の減となりました。

区 分	令和 7 年度	令和 6 年度	比 較
施 設			
在 宅 I	197	206	△ 9
在 宅 II	1		1
合 計	198	206	△ 8

(2) 社協独自在宅福祉サービス事業

◆介護用品支給事業（社協独自の紙オムツ等無料配付）

町から委託を受けて実施している在宅介護用品支給事業を補完するため、介護を必要とする在宅高齢者（要介護 1 以上）及び在宅重度身体障がい者（児）を対象に、介護用品（紙オムツ、紙パンツ、尿取りパッド）の支給を行いました。

介護用品の延利用者数は、全体で前年度と比較して 200 人の増となりました。

	対象者(回)			延対象者数(人)		
	令和7年度	令和6年度	比較	令和7年度	令和6年度	比較
遠 軽	83	79	4	907	695	212
生田原	24	14	10	145	148	△ 3
丸瀬布	11	13	△ 2	108	117	△ 9
白 滝	4	4		28	28	
合計	122	110	12	1,188	988	200

◆在宅介護用品貸与事業

在宅で生活する方を対象に、介護用品の無料貸出しを行いました。

介護保険サービスを利用できない方への退院後の生活支援をはじめ、介護用品のレンタル開始までのつなぎや購入前の試用、旅行や行事等における一時的な利用などで、短期かつ緊急的ニーズに対応してきました。

令和7年度の実績は次のとおりで、貸出総件数は、前年と比較して40件の増となりました。

		遠 軽		生田原		丸瀬布		白 滝		合 計	
		R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6
ベッド関連	ベッド	10	11							10	11
	マットレス	10	9							10	9
	サイドレール	9	7							9	7
	介助バー・手すり	9	4							9	4
	ベッド用テーブル	1								1	
	点滴棒										
歩行関連	車いす	28	27	2	3	2		11	13	43	43
	歩行器	26	29	1	2	4	2	2		33	33
	シルバーカー										
	4点杖	9	11	1	1	2				12	12
	杖	1	1							1	1
	松葉杖		2								2
	スロープ	5	2							5	2
	車いす用クッション		1								1
入浴関連	シャワーチェア	17	12	2	4	1				20	16
	浴槽台	5								5	
	バスグリップ	13	9		2	1				14	11
	バスマット										
	バスボード	1								1	
居室関連	手すり	47	29	1	1	2				40	30
	手すりストッパー	4	4							4	4
	ポータブルトイレ	6	7			1			1	7	8
合 計		201	165	7	13	13	2	13	14	234	194

◆はざま支援事業

本事業は、公的制度の対象とならない高齢者等に対し、訪問介護サービスをはじめ、配食や洗濯等のサービスを提供するものです。

令和 7 年度の年間利用者数は、前年度と比較して減となりました。

		令和 7 年度		令和 6 年度		比較	
		実人数	延利用数	実人数	延利用数	実人数	延利用数
通 所 介 護	基 本	人	回	人	回	人	回
	昼 食	人	回	人	回	人	回
	入 浴	人	回	人	回	人	回
訪 問 介 護	身体介護	7 人	14.0 時間	7 人	16.5 時間	人	△ 2.5 時間
	家事援助	人	時間	2 人	24.5 時間	△ 2 人	△ 24.5 時間
	そ の 他	1 人	1.0 時間	1 人	26.0 時間	人	△ 25.0 時間
配 食	該 当 者	1 人	102 食	2 人	105 食	△ 1 人	△ 3 食
	そ の 他	1 人	2 食	人	食	1 人	△ 2 食
洗 濯		人	回	2 人	2 回	△ 2 人	△ 2 回

◆おせち料理配付事業（生田原地区において実施）

70 歳以上の一人暮らしの高齢者のうち、年末年始を一人で過ごされ、配付を希望される方を対象に、一部自己負担金 1,600 円をいただき、12 月 31 日に生田原地区事務所職員が 16 世帯に配付しました。

また、本事業にあわせて、遠軽絵手紙同好会の皆様が作成した「手づくり箸袋」を配布しました。

◆年越し料理配付事業（丸瀬布地区において実施）

概ね 75 歳以上の虚弱高齢者世帯及び高齢の夫婦世帯のうち、希望される方を対象に、一部自己負担 1,500 円をいただき、12 月 31 日に年越し料理を配布しました。

配布は、丸瀬布地区の民生委員児童委員 8 名及び社協役職員・評議員 4 名の計 22 名で 20 世帯に 22 食を配付しました。

また、本事業にあわせて、遠軽絵手紙同好会の皆様が作成した「手づくり箸袋」を配布しました。

◆障害者総合支援事業（障がい者ホームヘルパーサービス・デイサービス）

障害者総合支援法に基づき、道及び町の事業所指定を受け、障がい者を対象とした居宅介護事業(訪問サービス)及び生活介護事業(通所サービス)を実施しました。

訪問サービスの延利用者数は、前年度と比較して、192 人の減となりました。

また、白滝で実施している通所サービスの延利用者数は、前年度と比較して 19 人の減となりました。

	令和 7 年度		令和 6 年度		比 較	
	実人数	延利用数	実人数	延利用数	実人数	延利用数
居 宅 介 護 (訪 問)	4	258	4	450		△ 192
生 活 介 護 (通 所)	1	34	1	53		△ 19
合 計	5	292	5	503		△ 211

◆日常生活支援サービス事業

高齢または障がい（知的障がい、精神障がい等）により、日常生活における判断能力に不安があり、在宅で生活している方、又は在宅で生活する予定の方を対象に福祉サービス利用手続きの支援や生活費の管理（通帳預かり、金銭管理、口座管理、借入金返済支援、支払支援等）を行いました。

令和 7 年度は、2 名の方に支援を行いました。

◆高齢者等在宅生活サポート事業

本事業は、令和 4 年度から実施している事業であり、既存の制度だけでは対応が困難な高齢者等の日常生活における「ちょっとした困りごと」に対し、在宅生活を支援することを目的に、有償ボランティア（地域住民）を派遣し、支援を行いました。

本事業は徐々に地域住民へ浸透しつつあり、令和 7 年度の実利用数は前年度と比較して減少しましたが、延利用者数と延ボランティア派遣数については、前年度と比較して増加しました。

	令和 7 年度	令和 6 年度	比 較
実 支 援 利 用 者 数	6	10	△ 4
延 支 援 利 用 者 数	80	48	32
延ボランティア派遣数	80	50	30

3 介護保険事業

(1) 訪問介護事業（ホームヘルプサービス）

4 地区 2 か所での道の事業所指定を受け、訪問介護サービス提供しています。

ホームヘルプサービスでは、在宅での身体介護や生活支援としての家事援助や通院時の乗降介助等を行っています。

令和 7 年度の事業所別、介護区分別の利用状況は、次のとおりです。

◆遠軽町社協ホームヘルプステーション

遠軽・生田原地区で実施している訪問介護事業所です。

令和 7 年度の事業実績は、前年度と比較して延利用者数全体では、1,140 人の増となりました。

	令和 7 年度	令和 6 年度	比 較
要 介 護 1	1,468	2,023	△ 555
要 介 護 2	2,467	1,392	1,075
要 介 護 3	1,928	1,673	255
要 介 護 4	518	200	318
要 介 護 5	91	44	47
合 計	6,472	5,332	1,140

◆白滝ホームヘルプステーション

白滝・丸瀬布地区で実施している訪問介護事業です。

令和 7 年度の事業実績は、前年度と比較して延利用者数全体では、353 人の増となりました。

	令和 7 年度	令和 6 年度	比 較
要 介 護 1	1,485	1,266	219
要 介 護 2	702	749	△ 47
要 介 護 3	339	158	181
要 介 護 4			
要 介 護 5			
合 計	2,526	2,173	353

◆介護予防・日常生活支援総合事業（第 1 号訪問事業）

町から事業所の指定を受け、介護予防・日常生活支援総合事業（第 1 号訪問事業）における要支援者、事業対象者に対し、サービスを提供しています。

令和 7 年度の事業実績は、前年度との比較では、遠軽・生田原地区が 4 人の増、白滝・丸瀬布地区が 104 人の減となり、事業所全体では、100 人の減となりました。

	令和 7 年度	令和 6 年度	比 較
遠軽町社協ホームヘルプステーション	1,460	1,456	4
遠軽町社協白滝ヘルプステーション	240	344	△ 104
合 計	1,700	1,800	△ 100

(2) 通所介護事業（デイサービス）

遠軽地区 2 ケ所、白滝地区 1 ケ所の計 3 事業所において、道及び町の事業所指定を受け、通所介護事業を行いました。

令和 7 年度の事業所別、介護区分別の利用状況は、次のとおりです。

◆デイサービスセンターのびやか

遠軽町保健福祉総合センター（げんき 21）内において、定員 1 日 30 名の通所事業を月曜日から金曜日まで（祝日を含む。）実施しました。

令和 7 年度の事業実績は、延利用者数が前年度と比較して全体で 127 人の増となりました。

	令和 7 年度	令和 6 年度	比 較
要 介 護 1	1,404	1,112	292
要 介 護 2	936	1,179	△243
要 介 護 3	852	794	58
要 介 護 4	394	257	137
要 介 護 5	336	453	△127
合 計	3,922	3,795	127

◆デイサービスのびやか 2 条通

遠軽町 2 条通南 1 丁目において実施している、定員 1 日 9 名の地域密着型通所介護事業を月曜日から金曜日まで（祝日を含む。）実施しました。

主に認知症のある方や大規模な事業所になじめない方が利用しています。

令和 7 年度の事業実績は、全体の延利用者数が前年度と比較して 109 人の減となりました。

	令和 7 年度	令和 6 年度	比 較
要 介 護 1	192	189	3
要 介 護 2	438	721	△283
要 介 護 3	93	6	87
要 介 護 4	294	210	84
要 介 護 5			
合 計	1,017	1,126	△109

◆デイサービスセンターほのぼの白滝

白滝地区の遠軽町白滝高齢者総合生活福祉センター（ほのぼの）内において実施している、定員 1 日 10 名の地域密着型通所介護事業を月曜日から金曜日まで（祝日を含む。）実施しました。

令和 7 年度の事業実績は、全体の延利用者数は、前年度と比較して、61 人の減となりました。

	令和 7 年度	令和 6 年度	比 較
要 介 護 1	588	854	△266
要 介 護 2	387	476	△ 89
要 介 護 3	464	170	294
要 介 護 4			
要 介 護 5			
合 計	1,439	1,500	△ 61

◆介護予防・日常生活支援総合事業（第Ⅰ号通所事業）

町から事業所の指定を受け、介護予防・日常生活支援総合事業（第Ⅰ号通所事業）における要支援者及び事業対象者に対し、サービスを提供しています。

令和７年度の事業実績は、全体の延利用者数が前年度と比較して、45 人の増となりました。

	令和 7 年度	令和 6 年度	比 較
の び や か	1,916	1,855	61
の び や か 2 条 通	54	64	△ 10
ほ の ぼ の 白 滝	171	177	△ 6
合 計	2,141	2,096	45

(3) 認知症対応型共同生活介護事業（ぐるーぷほーむ春來）

認知症により自立した生活が困難になった方が、住み慣れた地域の中で家庭的な雰囲気のもと共同生活を送ることができるよう支援しています。

また、訪問看護ステーション「にじ」との医療連携体制（週 1 回の訪問看護）を構築し、入居者の健康保持に努めています。

3 月末現在の入居者の要介護度は次のとおりで、待機者は 18 名となっております。

要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	計
1	3	1		4	9

(4) 小規模多機能型居宅介護事業（小規模多機能ほーむきなり）

自宅と同様な小規模な施設において、家庭的な生活環境を維持できるよう、「通い」を中心に「訪問」「泊まり」を組み合わせた介護サービスを提供してきました。登録定員は、24 名（通い定員 1 日 12 名、泊まり定員 4 名）です。

令和 7 年度も、利用者一人ひとりの状況に応じた生活支援に努めましたが、職員の減少等により安定かつ継続的なサービス提供が困難であると判断し、令和 8 年 3 月末をもって事業所を廃止しました。

なお、全体の延利用者数は、前年度比で 483 人の減となりました。

	令和 7 年度	令和 6 年度	比 較
要 支 援 1	56	167	△ 111
要 支 援 2			
要 介 護 1	1,272	1,613	△ 341
要 介 護 2	8		8
要 介 護 3			
要 介 護 4		39	△ 39
要 介 護 5			
合 計	1,336	1,819	△ 483

4 公益事業

(1) 居宅介護支援事業（介護計画作成）

介護認定を受け、介護保険を利用して各種サービスを受けるためには、サービス計画(ケアプラン)作成する必要があります。この計画を作成する者が、居宅介護支援事業所に所属する介護支援専門員（ケアマネジャー）です。

当事業所では令和7年度末、5名の介護支援専門員が業務に従事しています。

介護支援専門員は、要介護者本人やその家族（介護者）とともに、要介護者が住み慣れた地域で在宅生活を継続するために必要な支援内容を検討し、ホームヘルプサービスやデイサービス、福祉用具貸与等を組み合わせた介護計画の作成を行っています。

令和7年度も、利用者一人ひとりの心身の状況や生活環境に応じた介護計画の作成に努めました。

全体の延利用者数は、前年度と比較して130人の減少となっています。

	令和7年度	令和6年度	比 較
要 介 護 1	465	536	△ 71
要 介 護 2	359	390	△ 31
要 介 護 3	194	193	1
要 介 護 4	65	95	△ 30
要 介 護 5	36	35	1
合 計	1,119	1,249	△ 130

(2) 福祉用具貸与・販売・住宅改修事業

在宅で生活するために必要な福祉用具の貸与・販売および住宅改修を行い、高齢者等が安心しての在宅生活を継続できるように支援することを目的として、専門相談員が事業を進めています。

令和7年度も、利用者一人ひとりの身体状況や生活環境に応じた福祉用具の提供や住宅改修等を通じて在宅生活に努めました。

◆福祉用具貸与事業

介護用具の貸与を希望する高齢者等は多く、次の品目について貸与を行いました。前年度と比較すると、要支援者及び要介護者を合わせた貸与件数は566件の減少となりました。

令和8年3月末の実利用者総数は392人（要介護者267人、要支援者125人）で前年度より22人増えています。

貸与品目	要 介 護 者			要 支 援 者		
	令和 7 年度	令和 6 年度	比 較	令和 7 年度	令和 6 年度	比 較
車イス	722	809	△ 87	24	32	△ 8
車イス付属品	320	321	△ 1			
特殊寝台	1,139	1,285	△ 146	38	25	13
特殊寝台付属品	3,387	3,849	△ 462	105	75	30
床ずれ予防用具	261	340	△ 79			
体位変換器	28	43	△ 15			
手すり	4,233	4,088	145	1,869	1,654	215
スロープ	860	921	△ 61	81	36	45
歩行器	1,346	1,425	△ 79	646	684	△ 38
歩行補助杖	323	347	△ 24	174	199	△ 25
老人徘徊感知機器	70	61	9			
移動用リフト	34	32	2			
合 計	12,723	13,521	△ 798	2,937	2,705	232

◆住宅改修事業

要介護者等が在宅で安全に生活するため、介護保険の対象となる敷居の段差解消や玄関・トイレ・浴室・廊下・階段への手すり設置等の住宅改修を実施しました。

令和 7 年度の実施件数は 102 件で、前年度と比較して 2 件の増となりました。

また、介護保険の対象外となる手すり設置等については 92 件で、前年度と比較して 4 件の減少となりました。

これらを合わせた住宅改修事業全体の実施件数は、前年度より 2 件の増となっています。

	令和 7 年度	令和 6 年度	比 較
介 護 保 険 対 象	92	96	△ 4
介 護 保 険 対 象 外	10	4	6
合 計	102	100	2

◆福祉用具販売事業

要介護者等が在宅で生活を継続するため、介護保険の対象となるポータブルトイレ、風呂イス等の販売を行いました。販売件数は、136 件で前年度と比較して 7 件の減少となりました。

一方、一般福祉用具（介護保険対象外）の販売件数は、前年度より 25 件の減少となりました。

全体の販売件数については、前年度と比較して 32 件の減少となっています。利用者や家族からは、担当職員が訪問し、介護用品について丁寧な説明や相談対応を行うことで、利用者に適した用品を安心して購入できると好評を得ています。

	令和 7 年度	令和 6 年度	比 較
介護保険対象	136	143	△ 7
介護保険対象外	220	245	△ 25
合 計	356	388	△ 32

◆日常生活用具取扱事業

65 歳以上の寝たきりの方、重度身体障がい者（児）、知的障がい者（児）等の日常生活に必要な自助具について、遠軽町との契約に基づき、次のとおり交付を行っています。

令和 7 年度は、利用がありませんでした。

◆補装具取扱事業

令和 7 年度の実績はありません。

(3) 高齢者共同生活住居管理運営（有料老人ホームえにし）

在宅と施設の「はざま」にある支援を必要とする高齢者を対象に「有料老人ホームえにし」を整備し、入居者に対して生活支援サービスを提供しています。

令和 7 年度は、8 名の居住者に対し、安定した生活支援を行いました。

3 月末現在の入居者の要介護度は次のとおりで、待機者は 11 名となっております。

要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	計
3	4	1			8

(4) 介護予防支援事業・介護予防ケアマネジメント

本事業は、要支援者及び事業対象者を対象に、介護予防を目的としたサービス計画を策定するもので、地域包括支援センターにおいて実施しています。

計画策定件数が多いことから、外部委託件数は若干増加しました。

要支援 1・2 に係る介護予防サービス計画の作成件数は、前年度と比較してよ 110 件の増となりました。

介護予防支援事業・介護予防ケアマネジメント全体でのサービス計画作成件数は、前年度と比較して 66 件の増となっています。

区分ごとの介護予防支援事業・介護予防ケアマネジメントサービス計画の作成状況は、次のとおりです。

	令和 7 年度			令和 6 年度			比較		
	支 1	支 2	計	支 1	支 2	計	支 1	支 2	計
包括直営	801	833	1,634	738	798	1,536	63	35	98
社協委託	30	21	51	33	12	45	△ 3	9	6
外部委託	42	70	112	42	64	106		6	6
合計	873	924	1,797	813	874	1,687	60	50	110

介護予防ケアマネジメント計画状況

(単位：件)

	令和7年度	令和6年度	比較
サービス提供者数	1,119	1,053	66

介護予防・日常生活支援総合事業対象者数

(単位：件)

	令和7年度	令和6年度	比較
事業対象者	4	5	△ 1

(5) 認知症サポーター養成講座実施状況

認知症サポーター養成講座の実施に協力し、講師として職員を派遣しました。

実施日	派遣先	キャラバンメイト（講師）
令和8年1月30日	派遣先 遠軽中学校 場 所 遠軽中学校 参加人数 71人	地域包括支援センター 所 長 野 村 直 美 保健師 橘 梨 夏